

十 月

第 ① 调 中学学

年



学習を始める前に

①必ず用意してください

・ノート

、学習しやすいように、漢字のノー トを分けるなど工夫をすること。 国語

筆記用具(赤ペンも用意すること。)

②注意

- 大事だと思うところはノート ださい。 に書いてく
- したい人は、 このビデオで使っているスライドを印 最後のお知らせを見てく
- たら、ビデオを止めて、先生の指示に従っ てください 「ビデオを止めてください。」と言
- う一度ビデオを見たりするなど、 必要があるときは、ビデオを止めた 工夫をください。 それぞれ り、

先週の宿題から

るだろうか。 により近い書き表し方をする場合がある。 外来語は、 と書く代わりに、 例を探 一般に片仮名で書き表す。 てみよう。 「ヴァイオリン」 その ように、 どのような言葉に使 際、 例えば 元 の 外国

ストップウォッチスウェーデンドウィッチフォーク

- 考えよう。 体 の器官 来語が多い わ たち \mathcal{O} 名前 分野がある。 など、 身 \mathcal{O} 口 りには、 いろいろな分野の言葉を集めて、 魚の名前、 和 語 が多い 野球の用語やすもう 分野、 漢語が多 語の \mathcal{O} 用語、 分野、 種類を
- 介和語 - 片仮名/漢字》
- 野球 ピッ チ Y アウト、 エラー 〈外来語〉
- すもう 横綱、東 〈和語〉
- 体の器官 胃腸心臓 〈漢語〉

- 3 な違 元来は VI ジ がある が違 同じ言葉を表す言葉でも、 てくる場合がある。 か考えよう。 「ライ 語 の種類によ ご飯 0 飯 て、 では、 意味やイ
- ご飯 食事 炊いた米
- ・飯 ややぶっきらぼう
- ス ライスを食べようとは ーラ わな

弟たちに・・・・・・

生まれました。 僕 の弟 の名前は、 そのころは小学校といわずに、 ヒロ ユ キといいます。 僕が 国民学校と 小学校四年 生の時 1 0 7

防空壕といる場合で爆弾を落って爆弾を落った。 空襲と 僕 \mathcal{O} 父は う 地 戦争に行 しに来ま て、 下室の T 中で寝ま 7 た。 力 ました。 \mathcal{O} B 29 と 夜もおちおち寝 た。 いう飛行機が 太平洋戦 7 争 1 \mathcal{O} , ら 毎 真 れませ 日 0 最 \mathcal{O} 中 ょ う ん。 です。 に日本 毎 晚、

母と祖 と僕 部屋 地下室と です。 で掘 母と妹と弟の五 0 た 僕 \mathcal{O} 0 です。 うちでは、 ても、 人です。 父は戦争に行 自分たちで掘 畳を上げ 五 が 9 7 0 床 座 て留守な ったらそれでい す に穴を掘りました。 から、 \mathcal{O} で、 家族は、 さな っぱ 1 僕と 母 穴

ら助 弟は生まれ く寝てい る、 ました。 と言っ て間もな ていました。 母は穴を掘りながら、 \mathcal{O} ですが 1 つも泣 ヒ かない 口 ユキがおとなし で 人 でお カン

* 29 そのころのアメリカの最新型長距離爆撃機

新出漢字〉

空工龍

爆ばくだん 弾ん

寝^ねる

掘^ほる

畳たみ



お乳が した。 て、 のもっと薄 自分は、 食べ ヒロ 物 ユ 1 食 キは食べるものがあ です。 まり食べ \mathcal{O} を食べさせたり、 母は ま -分にな 自分が食べ せんでした。 か やぎのミルクを遠くまで買 りません。 ったので、 な でも弟の ので、 おもゆと 母 お乳が は僕た ヒ ロユ 5 キ でなくな には、 っておか 食べさせ 母 に りま ゆ \mathcal{O}

行って飲ませたりしました。

丰 でも、 の大切な大切な食べ ときどき配給が 物 あ でした: りま した。 ? ルクが 缶 それ が ヒ 口 ユ

丰 甘い甘い弟 ŧ はぜんぜんな はそれ 母は、 みんなには お菓子もなんにもな よく言 のミル か食べられないのだからと カン とうていわからな ったのです。 いました。 クは、 よだれがご いころな ミル あめもチョコレー ク いでしょうが、 はヒロユキのご飯だから、 出るほど飲みた のです。食い そ しん坊だった僕に ーもア いも のころ、 ので 1 ・スク した。 甘 J | ヒ 口 は、 ユ

ま でも、 いました。 僕は かくれ それ ŧ 何回も・・・・・・ ヒロ ユキ の大切なミルクを 盗 み飲みし 7

Ŕ 僕にはそれがどんなに悪いことか、 僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわ 0 た のですが、 ・・・・・それなのに飲んでしまいました。 よくわかっていたのです。 いくてかわいくてし で

* 配給 戦争中、 割合で消費者に配ること 不足した物資を政府が統制し、 品物などを一定の

新出漢字〉かんかん

お 菓 ^か

盗み飲み



帰 ころが ま 母はそれを聞く をおんぶ なり、うちには食 じた りました。 に行 った それ 空襲が にのでは て僕 んせきの である と三 ひどく な ~ り、 なか 物はな 一人で 人は、 日 僕 った に帰ろうと言っ 祖母 ってきた は \mathcal{O} 11 です。 $\tilde{\lambda}$ るばる出 لح と言いま んせきの 四歳 引 \mathcal{O} で、 カン 0 11 越しの て、 た。 け る に留守番 母は疎開 田舎 てきた母 僕たちは食 相談 る を頼ん 出 りと後 しようと言い と弟 か に行 けま と僕 で、 らした。 を向 物 た をもら 母が弟 のに。 を見る لح 7

悲しい顔 僕たち子 ときのこ その時 とを思うと、 供を必死に守 でした。 \mathcal{O} 顔 を。 僕はあ 僕 は 今も 0 つも胸 7 忘 に美し れ れ る母 が ま 7 せ 0 λ 顔 顔 は、 を見たこ 強 にな 1 美 顔 ります。 で とはあ 11 L た。 です。 りま で 僕 ŧ せん は 悲 あ \mathcal{O}

ゆら が 岡から南 母と祖母 ることになりました。それ 母は行 決まりました。 口ったこともないことを思うと、いっ と妹、 二十キ ながら、 それに弟は、 ・ロくら とりあえず必要な荷物 朝、 家を出て、 Щ 行った、 でも、 の中 その馬車 の親切な 荷物 南 は 釜 に \mathcal{O} という むか 荷物 馬車 人に だけを持 頼 一台あ の上に座って、 んで、 7 旅立ちま 9 て、 りました。 の村 Þ 引っ越 つと した。 です。 疎開 ゆらり 僕 す 先 لح

らは 沿 馬車 0 て山 で昼 泳 へかかりました。 $\overline{\mathcal{O}}$ が お . 見ら むすびを食べ、 れます。 美しい青空、 生ま 昼すぎには、 れ て 桃 初 の花が 8 7 きれい 4 Ź, . 咲く 山村 な 桃 渓流 源 郷 で 橋 カン

ろうと思 から ですから、 0 た 始まる苦 りして、 毎日あ し \sum_{i} い生 \mathcal{O} あ 活 カン など、 5 ゆをとっ の生活 僕に て に おかずに、 胸 は まだ分 を はず すれ ŧ カン 5 せま ば 母 1 が喜ぶ 年ごろ た。 だ

空襲などによる な地方へ引っ越すこと 戦 災 カン ら身を守るため、 都市 \mathcal{O} 住民が 安全

* 源郷 俗 世 間を離れたすばらし 1 別世界。

(新出漢字) 疎ッ

渓流

開

咲^さく



部屋 さるような山すそに 日 を借 たち わたれません りま た。 話 に 家の前 . あ 下 なる農家 りま 流 の渓流 した。 橋をわた は には その農家の すぐ って学校に行きまし 飛び石が対岸に続き、 庭 に 頭 面 た六畳間の た。 お お 大 1 雨 \mathcal{O}

に 残 母 は生まれ て、 持 0 て初 て帰 8 9 て田植えを手伝 てきま した。 昼に出されるご飯を僕たち

7 いき、 僕たち疎開者には配給 ました。 近所 \mathcal{O} 農家の 人たちにお願 もあ りませ いして、 λ \mathcal{O} で、 米と交換 母は自分 \mathcal{O} ても 着物を持 らって 0

ま 7 した。 疎開 いる農家があると聞 しても、 ヒ 口 ユ キ 11 ては \mathcal{O} お 乳には 母 は着物をふろしきに包んで出 困 りました。 隣村に やぎを. 餇 カン け 0

弟が欲 と ロ ユ キをお か った W \mathcal{O} で、 ぶして、 よくかわ 僕 は ょ 1 が りま ĴΪ へ遊 した。 でに 出 カン け ŧ 僕 は

物 カ 町 を祖 の病院に ヒロユ 母に キ た 用意 入院 は病気になりました。 しました。僕は学校 してもら V , 母と弟 僕 たち から帰ると、 \mathcal{O} の村 る 病院に、 から三里く 、毎日、 バス まきと食べ に乗 らい 0

十日くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

夜を、 ました。 栄養失調 い電気 僕 です・・ 母と僕に見守られて、 は忘れられません。 下で、 小さな小さな 泣きもせず、 弟は死にました。 口に綿にふくませた水を飲 弟は静か 病名は に息をひ あ りません。 ま きとり せ

* 三 里 里は、 約三· 九キロメートル

交換 隣村 となり

家ヒ にロ死 帰ユん おりました。 回がおん いものを入れぶして、い れ僕 たは が十手には片手に ふやろか しき包含 みを持 つ手

たバ のス白 でがい しあ乾 りた ょ 三里の道を、 の、道母 を歩きた ま死山 しんの たで村。いに る向 のか でっ ほて か歩 のき人続 に遠い 慮し た。

てく29 い輝の空 るい独は て特高 はいの ミニ人だけれることでは、高く青くど 。畑にも、九でいま も、人影はありません青空にきらっきらっました。ブウーンブウ W つウ でととし機ン た体と。がい 歩美う いしB

5 , 母 言は いました。 口 ユキ \mathcal{O} 顔 に 飛 λ でく る はえを手で は 5 11 な が

とらと で 死 ぬれロ かてユ ら死キ んは もだ幸 つのせ とだだ かかつ わらた。 そ空母う襲と だの兄 た撃おった。 ♪。-が死ねば、 なと者さん、 み看ん護 な婦 ばらん ばに らみ

りの作さ ま 手つつ家 せでててで ん寝いいは よした。小さなないおじさんが、対外が、泣いて待 なは杉で のでしたが、 の小さな・ がました。 が、棺が小さすぎているなな棺に、母にいさな小さな棺に、母にた。部屋を貸してく と を 7 入僕

に 入母 れが ま した。 大きく そ な \mathcal{O} 9 とき、 た 母ん はだ 初ね 8 てと 泣きま L 丰 たの ひざを曲 げ 7 棺

な い父 まは ま で戦 争に行 0 7 すぐ生ま れ た ヒ 口 ユ キ \mathcal{O} 顔を、 とうとう見

れ た死 そ そでし九 て日三後 日の 後八 に月 ナ六 ガ日 サに、キ、 にヒ 口 シ 7 に 原子爆弾 が 落とさ

た。そ 六 日 た 0 た 九 兀 五. 年八 月十五日に 戦争は終わ りまし

僕 は ひもじ カン 0 たことと、 弟 \mathcal{O} 死 は 一生忘れませ ん。

〈新出漢字〉

澄む 爆撃 ゲキ

杉 板

削る 棺^{カン}

弟たちに・・・・・・

生まれました。 僕 の弟 の名前は、 そのころは小学校といわずに、 ヒロ ユキといいます。 僕が 国民学校とい 小学校四年生の時 0 て

僕 空襲とい \mathcal{O} 父は 戦争に行 としに来ました。 アメリカ って ました。 の B 29 と 夜もおちおち寝ていられません。 いう飛行機が 太平洋戦 争 の真 毎日 0 最 \mathcal{O} 中 ように日本 です。 毎晩、

防空壕といる場合で、 、 う 地 下室の 中で寝ま した。

部屋 と僕 母と祖母と妹と弟の五人です。 地下室とい です。 で掘った 僕 のです。 のうちでは、 0 ても、 自分たちで掘 父は戦争に行っ 畳を上げ 五人が て床の下 0 座 た穴です て留守な ったらそれでい に穴を掘りました。 から、 \mathcal{O} で、 家族は、 小さな小さな っぱ い の 僕と 穴 母

ら助かる、 しく寝ていました。 弟は生まれ と言っ て間もな ていました。 母は穴を掘りながら、 1 0) ですが、 1) つも泣かない ヒロユキがおとなし で 人 でおとな

〈新出漢字〉

空襲

爆ばくだん

寝^ねる

掘 る

畳たみ

* B 29 そのころのアメリカの最新型長距離爆撃機

重要語句の確認

真っ最中

一番、盛んなこと。

おちおち 落ち着いている様子。



行 お乳が食べ物です。母は自分が食べないので、お乳がでなくなりま のもっと薄いのを食べさせたり、 した。 って飲ませたりしました。 自分はあまり食べませんでした。でも弟のヒロユキには、母の のころは食べ物が十分になかったので、 ヒロユキは食べるものがありません。おもゆといっておかゆ やぎのミルクを遠くまで買いに 母は僕たちに食べさせ

丰 でも、 の大切な大切な食べ ときどき配給があ 物でした・・・・・・ りました。 ミルクが 一

伝 それが ヒ 口 ユ

キはそれしか食べられないのだからと 甘い甘い弟 はぜんぜんな 母は、よく言いました。ミルクはヒロユキのご飯だから、 みんなにはとうていわからな お菓子もなんにもないころな のミルクは、 かったのです。 よだれが出るほど飲みたいものでした。 あめもチョコレー いでしょうが、 のです。食いしん坊だった僕に そのころ、 イスクリー ヒロ は、 ユ

いました。 僕はかくれ それも、 何回も・・・・・・。 ヒロユキの大切なミルクを盗み飲みしてし

かたなかったのですが、 僕にはそれがどんなに悪いことか、よくわかっていたのです。 僕は飲んでしまったのです。僕は弟がかわ ・・・・・それなのに飲んでしまいました。 いくてかわいくてし

新出漢字

一 缶^カ

お 菓 カ

盗み飲み

*配給 戦争中、 不足した物資を政府が統制し、 品物などを一 定の

割合で消費者に配る



場面1〈弟がうまれたころ、戦争中の生活〉

あらすじをまとめましょう

登場人物の行動と心情

母は僕たちに食べさせて、自分 子どもには食べ物を与えたいとました。 いう、 ことへの とロユキの大切 ヒロユキにとって大切な食べ物 はあまり食べませんでした。 いう、	登場人物の行動	心情
した。 ことへの ことへの ことへの ことへの した。 ことへの ことへの	あまり食べませんでした。は僕たちに食べさせて、自分	いう、
	した。 した。 とロユキの大切はかくれて、ヒロユキの大切	ルクをのんでしまっにとって大切な食べ

重要語句の確認

おちおち 真っ最中

葉をつけて使われる *いつも「ない」のよ 落ち着いている様子。 一番、盛んなこと。 いれる。 のような、

打ち消す言



場 面 1 〈弟がうまれたころ、 戦争中の生活〉

らすじをまとめましょう

の配給 口 毎 の配給のミルクを盗み飲みしてロユキの食べるものがなくなる日空襲を受け、食べ物がなる大平洋戦争の真っ最中に弟の てしまった。 かの た。僕は、かった。母の 。母のお乳が出なくなり、ユキが生まれた。そのころ ときどきあるヒロユキ

2 登場人物 の行動と心情

(悪いことをしたという罪の意識) (悪悪感) (悪悪感) (ままな) (ままな) (ままな) (ままな) (ままな) (ままな) (ままな) (まな) (ました。 ました。 とっこきの かられ くれて しょこ こきの から
いう、(母の愛情)	きょうこれで、 ニュュテンでのはあまり食べませんでした。
子どもには食べ物を与えたいと	母は僕たちに食べさせて、自分
心情	登場人物の行動

重要語句の確認

おちおち

葉をつけて使われる *いつも「ない」のよ 落ち着いている様子。 一番、盛んなこと。 のような、

打ち消す言

れる。



た。 それである日、 まり空襲がひどくなってきた 祖母と四歳の妹に留守番を頼んで、母が弟をお ので、母は疎開 しようと言いだしまし

僕に帰ろうと言って、 なかったのです。 は食べ物はないと言いました。僕たちは食べ物をもらいに行ったのでは しんせきの人は、はるばる出かけてきた母と弟と僕を見るなり、うちに んぶして僕と三人で、しんせきのいる国毊へ出かけました。 引っ越しの相談に行ったのに。母はそれを聞くなり、 くるりと後ろを向いて帰りました。 ところが、

思うと、 供を必死に守ってくれる母の顔は、 い顔でした。 その時の顔を。 いつも胸がい 僕はあんなに美しい顔を見たことはありません。僕たち子 僕は今も忘れません。 っぱいになります。 美しいです。僕はあのときのことを 強い顔でした。でも悲しい悲

朝、 それに弟は、 なりました。 まりました。 母は行ったこともない とりあえず必要な荷物だけを持って、 その馬車の荷物 それでも、 山の中の親切な人に頼んで、や って旅立ちま 荷物は馬車一台ありました。 の上に座って、 ゆらりゆらり揺 引っ越しすることに 僕と母と祖母と妹 っと疎 ら、

馬車の上で昼のおむすびを食べ、 に。福岡から南へ二十t ふくおか 家を出て、南にむかく へ二十キロくらい行 昼すぎには、きれいな渓流 つた、 石釜というよいしがま に沿っ ごです。 7

泳ぐのが見られます。 山路へかかりました。 生まれて初めてみる、美しい青空、桃の花が の花が咲く山村、 桃源郷で した。 橋からは

たりして、 ですから、 これから始まる苦しい生活など、 毎日あ これからの生活に胸をはずませまし のあゆをとっておかず 僕にはまだ分からない年ごろ にすれば母が喜ぶだろうと思 た。 で 0

〈新出漢字〉 疎開

关さ

渓流

*疎開 空襲などによる戦災から身を守るた め、 都市 \mathcal{O} 住民が安全な

地方へ引っ越すこと。

* 桃

俗世間を離

れたすばらし

1

別世界。

はるば 重要語句 確認 遠くはなれた所から来るようす。遠くはなれた所へ いくよう

・・・なり
〜するとすぐ。

必死 死ぬ かくごで全力でかんばるさま。

胸をはずませる 喜 くさせる。 びや期待などで心が落ち着かなくなる。 胸をわ

ぶさるような山すそにありました。その農家の庭に面した六畳間 大雨の日はわたれません。下流の橋をわたって学校に行きました。 母は生まれて初めて田植えを手伝い、 一部屋を借りました。 僕たちがお世話になる農家は、 家の前 の渓流には飛び石が対岸に続き、 すぐ裏の山が頭の上におお 昼に出されるご飯を僕た

ちに残して、 持って帰ってきました。

僕たち疎開者には配給もありませんので、 いき、 近所の農家の人たちにお願いして、 母は自分の着物を 米と交換しても

らつ いました。

餇 ている農家があると聞いては、 ヒロユキのお乳には困りました。 母は着物をふろしきに包んで 隣村にやぎを

は弟が欲 ユキをおんぶして、 かったので、 よくかわい 僕はよく川へ遊びに出かけました。 がりました。 僕

、新出漢字〉

交換が

新出音訓〉 欲しい



場面2〈田舎〈疎開〉

あらすじをまとめましょう

2 登場人物の行動と心情

たい、育てたいという	換してもらったりした。らったり、自分の着物を米と交母は田植えを手伝ってご飯をも
しんせきの冷たい態度への	と言われた。 談に行ったのに、食べ物はない田舎のしんせきに引っ越しの相
心情	登場人物の行動

重要語句の確認

はるばる 遠くはなれた所から来るようす。遠くはな

・なり ~するとすぐ。れた所へいくようす。

必死

胸をはずませる **げませる** 喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。 死ぬかくごで全力でかんばるさま。 をわくわくさせる。 胸

場面2〈田舎〈疎開〉

あらすじをまとめましょう

た。 ロユキのお乳のために、空襲がひどくなり、僕 僕は弟をとてもかわいが 僕たちは田舎の山 母は着物を持っていって交換してもらっ った。 の中に疎開した。米とヒ

2 登場人物の行動と心情

(母の意志の強さと深い愛情) たい、育てたいという	換してもらったりした。らったり、自分の着物を米と交らは田植えを手伝ってご飯をも
(深い悲しみ) しんせきの冷たい態度への	と言われた。 と言われた。 田舎のしんせきに引っ越しの相
心情	登場人物の行動

重要語句の確認

はるばる 遠くはなれた所から来るようす。 れた所へいくようす。 遠くはな

必死 ・なり 死ぬかくごで全力でかんばるさま。 〜するとすぐ。

胸をはずませる 喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。 胸

をわくわくさせる。

した。 祖母に用意 の病院に入院しました。 L ユ してもらい、 は病気になりました。 母と弟の 僕は学校から帰ると、 いる病院に、 僕たちの村から三里くらい離 バスに乗って出 毎日、まきと食べ カ けま 物を た町

十日くらい入院したでしょうか。

ヒロユキは死にました。

た。 を、 暗 母と僕 い電気 僕は忘れられません。 に見守られて、 で、小さな小さな口に綿にふくませた水を飲ませた夜 弟は死にました。 泣きもせず、 弟は静かに息をひきとりまし 病名はありません。 栄養

失調です・・・・・。

りました。 キの身の回 死んだ弟を母がおんぶして、 りのものを入れた小さなふろしき包みをも持って、 僕は片手にやかん、 そして片手に 家に帰 ヒ 口 ユ

しよう、 スがありましたが 白 い乾 三里の道を歩きました。 いた 一本道を、 母は弟が死ん 三人で山 でいる の村に 向 \mathcal{O} でほか か って歩き続けました。 の人に遠慮したので

独特 人だけです。 います。道にも畑にも、 空は高く高く青く澄んでいました。 のエンジ ン音がして、 人影 青空にきらっきらっと機体が美しく輝 Ĩ あ りませんでした。 ブ ウー ン ブ クー 歩 7 というB いる は三 7 \mathcal{O}

言いました。 母はときどきヒロユキの顔に飛んでくるはえを手ではらいなが 5

5 れて死んだのだから。 ヒ ロユキは幸せだった。 っとかわ いそうだった。 空襲の爆撃で死ねば、 母と兄とお医者さん、 みんなばらばらで死ぬか 看護婦さんにみとら

(新出漢字)

澄む爆が

* 三里 里は、 約三· 九キロメー

重要語句の確認

みとる 病 人のそばにい て世話をする。 また、 死期まで見守る。

でした。 さっていた農家のおじさんが、 寝かされました。小さなな弟でしたが、 ていてくださいました。弟はその小さな小さな棺に、母と僕の手で 家では祖母と妹が、泣いて待っていました。 杉板を削って小さな小さな棺を作っ 棺が小さすぎて入りません 部屋を貸してく

入れました。そのとき、 母が、 大きくなっていたんだね、 母は初めて泣きました。 とヒ 口 ユ キ 0 ひざを曲げて棺に

いままでした。 父は、 戦争に行ってすぐ生まれたヒロユキの顔を、 とうとう見な

ました。そして三日後にナ 弟が死んで九日後の八月六日に、ヒロシマに原子爆弾が落とされ ガサキに。

そして、 六日たった一九四五年八月十五日に戦争は終わりました。

僕はひもじか ったことと、 弟の死は 一生忘れません。

(新出漢字)

削ずる

棺が

重要語句の確認

ひもじい おなかがすい 7 いる。





場面3〈弟の病気・弟の死〉

① あらすじをまとめましょう

② 登場人物の行動と心情

た。とき、母は初めて泣きまし	「ヒロユキは幸せだった。」	せん。栄養失調です・・・・・。弟は死にました。病名はありま	登場人物の行動
気づきどう感じたのか。 キロユキが大きくなったことに 母の気持ち	母の気持ち	その原因の戦争へのれだことへの乳)は十分のないために弟が死乳)は十分のないために弟が死	心情

重要語句の確認

みとる ひもじい おなかがすいている。病人のそばにいて世話をする。 また、 死期まで見守る。

場面4〈弟が死んでから〉

① あらすじをまとめましょう。

場 面 3 〈弟の病気 • 弟 の死〉

ましょう

栄養失調だった。小さな弟だったが、棺が病気になったヒロユキは十日間ほど入院 母は、大きくなっていたんだねと言い、 あらすじをまとめ 棺が小さすぎて入らなかった。入院して死んだ。病名はなく 初めて泣いた。

2 登場人物 の行動と心情

た。) 大きな悲しみがこみ上げてきが大きくなっていたのを知り、(食べ物がないのに、ヒロユキ	
気づきどう感じたのか。 キロユキが大きくなったことにキヒント 食べ物がないのに、母の気持ち	た。とき、母は初めて泣きまし
自分に言い聞きかせている。)ば、ヒロユキは幸せだったと、(空襲の爆弾で死ぬのに比べれ母の気持ち	「ヒロユキは幸せだった。」
その原因の戦争への(にくしみ)んだことへの(悲しみ)乳)は十分のないために弟が死乳(いってはお)のないために弟が死	せん。栄養失調です・・・・・・。弟は死にました。病名はありま
心情	登場人物の行動

重要語句の確認

みとる ひもじい おなかがすいている。病人のそばにいて世話をする。 また、 死期まで見守る。

場面4〈弟が死んでから〉

あらすじをまとめましょう。

日に戦争が終わった。 ヒロシマ、 ナガサキに原子爆弾が落とされ、一九四五年八月十五 ひもじかったことと、弟の死は忘れな V)

新 て覚えなさい

爆ガタダン 空製シュウ 龍 龍 龍 龍 龍 龍 龍 音 襲襲 育 音 襲 背

寝^ねる 煜 引 焊 彈 熼 炽 引 弱 爆 寝寝寝 弱 爆 焊 爆 寝 焊

置たたみ 掘ほ 缶カン 寝 田月田月田日 寝 出 严 門門門門

お 菓子 東東東首 苗

盗すみ \bigcirc 4

次

次

次

次

次

読み方を書きましょう。

(1)空襲がひどくなってきた。

(2)日本に 爆弾を落としに来た。

(3) 地下室の中で寝る。

(5)畳を上げて穴を掘った。 (4)

自分たちで掘った穴。

(6)ミルクが一缶届く。

(7)お菓子は何もない時代。

(8)大切なミルクを盗み飲んだ。

答え合せをしましょう。

(1)空襲が くう ゆう ひどくなってきた。

(2)日本に 爆弾を落 としに来た。

ば くだ

(3)

地下室の中で寝る。

(4)自分たちで掘った穴。 ね る

ほ った

(5)畳を上げて穴を掘っ た。

た た 7

ミル クが一 7 لح 缶 カ 届

(6)

(7)お菓 は何もない時代。

(8)お 大切なミルクを盗 カ ね すみ 4 飲 んだ。

重要語句の確認

真っ最中

一番、盛んなこと。

おちおち

落ち着いている様子。

*いつも「ない」のような、 打ち消す言葉をつけて

使われる。

はるばる

遠くはなれた所から来るようす。遠くはなれた所

へいくようす。

・・・なり

〜するとすぐ。

必死

死ぬかくごで全力でかんばるさま。

胸をはずませる

喜びや期待などで心が落ち着かなくなる。 胸をわ

くわくさせる。

みとる

病人のそばにいて世話をする。また、 死期まで見

守る。

ひもじい

おなかがすいている。

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

今日の授業で書 いた新出漢字の 練習。

文章で書けるように、 新出漢字以外の漢字も復習の

ため練習しましょう。

音読 「大人になれなかっ た弟たちに を

読みましょう。

3. 重要語句など

重要語句や、 戦争の 話に使われる言葉の意味を確認

しておきましょう。



お知らせ

- 1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
- 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送ってくれれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNClass.com です。
- ❖ このビデオのスライドはWebページ http://JPNClass.com から ダウンロードや印刷ができます。



年間学習表

事 学

年



7月	6月	5月	4月		
		発見したことを伝えよう メモをもとにスピーチ をしよう。	野原はうたう 好きな詩を、登場する とき物の気持ちになっ	一 年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習 を進めよう。	話す/聞く
文章の推敲と原稿用紙の 使い方 相紙のうえでの推敲の 用紙のうえでの推敲の がよりを確かめよう。 う。	情報を文章にまとめよう。 について、情報を集め、 について、情報を集め、	発見したことを伝えよう スピーチメモを書こう。	野原はうたう 自分の好きな生き物を を作ろう。	新聞記事 や感想を書こう。 や感想を書こう。	書く
光と風からもらった贈り物 物 電者が「高原」のどん なところに、言葉の豊 かさを感じているかを とらえよう。	クジラたちの声 である理由をつかもう。 の情報伝達に音が最適 え、音の役割、海中で する二つの問いをおさ は、一次での である理由をつかもう。	ちょっと立ち止まって ものの見方について、 ものの説明を通して、 をとらえよう。	野原はうたう 作者が生き物の姿にど れな思いを感じている かを、読み取ろう。 かを、読み取ろう。 とらえよう。 とらえよう。	新聞記事を読もう。	読む
混同しやすい漢字 を知り、間違えて使わ であったりする漢字 であったりする漢字 が似ていたり音が同	言葉の単位 文節や単語に区切る方	漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と 漢字の部分のよび名と	話し言葉と書き言葉の 語いをおさえよう。		言葉

1 2月	11月		10月	9月	8月	
		いろは歌 文の調子にのって読み、 すの調子にのって読み、 はいてもらおう。				話す/聞く
未来をひらく微生物 環境問題について課題 まとめよう。			大人になれなかった弟た の生活と比べてどんな の生活と比べてどんな ことを考えたのか、感	手紙を書こう 的や相手を考え、手紙 が書けるようになろう。	さつき さつき 別目身の体験と重ねて 感想を書こう。 読書記録 書いて残そう。	書く
未来をひらく微生物 自然の仕組みの中で、 問題の解決どのように 利用されているのか読 み取ろう。	今に生きる言葉 関れよう。「矛盾」がどんなまピソードからどんな意味に使われるようになったのか確かようになったのか確かめよう。	いろは歌 古文の言葉の響きや調 古典に対する興味や関 心をもって読もう。	大人になれなかった弟た 物の心情や作者の思い を読み取ろう。	麦わら帽子 その移り変わりを読み その移り変わりを読み まれら帽子やカモメに をある。	さつき や、助かった正作を見 中を表す言葉に注目し で読もう。	読む
文の組み立て 関係を理解しよう。 関係を理解しよう。		古典の言葉 文語と口語の違いを考えよう。 漢字の音訓 音と訓それぞれの読み 音と訓それぞれの読み	漢字四字の熟語 えよう。 き味をおさ	漢語・和語・外来語 分類ができるようにな 漢語・和語・外来語の		言葉

	3月	2月	1月	
		心に残る思いで うに、発表しよう。 えよう。		話す/聞く
	言葉を調べよう 言葉についての課題を 。	心に残る思いで 今までの経験で、自分 とや、変わったと思う ことを思い出して、文 とのよう。	江戸からのメッセージ 考え、それをまとめよ に生かせることは何か に変の知恵を今の時代	書く
	大仏様は「にっこり」 大仏様は「にっこり」 しています 過して、説明されている日本語の特色を読み取ろう。 取ろう。 取ろう。 かを言葉との出会いを 人や言葉との出会いを したちに願うことは何 いを考えよう。	少年の日の思い出 変わりをとらえ、生き 変わりをとらえ、生き	江戸からのメッセージ 江戸っ子の生活と、そ こから導かれた筆者の 主張をつかもう。	読む
《一年生の漢字》 一年生で習った漢字の	漢字の成り立ち え、成り立ちで意味や え、成り立ちで意味や を知ろう。	指示する語句と接続す る語句の種類や用法を る語句の種類や用法を	辞典を活用しよう の使い方を知り、実際 の様々な言葉を調べよ う。	言葉